

2008年度事業報告、決算報告について

NPO法人 共存の森ネットワーク

NPO 法人共存の森ネットワークの活動指針

当 NPO は、「森の聞き書き甲子園」の活動と、この甲子園に参加した経験をもつ卒業生有志から
はじまった「共存の森」と呼ぶ森づくり活動を母体に生まれました。

森とともに生きてきた先人たちの伝統的な暮らしの知恵や技の集積の中に持続可能な社会の基
本があることを見据えながら、人と自然・人と人との「共存」を基本とした社会づくりと、新たな価
値観の創造に寄与することを目的としています。

そのために、当 NPO は「森の聞き書き甲子園」の運営をはじめ、「閉じられた生態系—地球—」
の上で全人類と他の生物が共存するための「人づくり」、「森づくり」、「地域づくり」、「情報発信」等、
様々な活動を展開していきます。

これらの活動を末永く続けていくことが、持続可能な社会の構築への一歩と考えます。そのため
には、大人たちから若い世代へ、若い世代から大学生・高校生へと、世代をつないでいくことが重
要です。

当 NPO の活動は「森の聞き書き甲子園」に参加した経験をもつ卒業生、あるいは「共存の森」の活
動に参加する学生等、若者たちを中心とした活動へと引き継いでいきたいと思えます。

そのために、現在は当 NPO の活動基盤の強化を図ることが必要ですし、会員の皆様と共に活動
全体の将来像をしっかりと考え、共有していかなければなりません。

皆様の引き続きの御指導、御鞭撻をお願い申し上げます。

第1号議案－1 2008年度事業報告

概要

当NPOは、「森の聞き書き甲子園」とその卒業生有志によって行われる「共存の森」の活動を中心に、「地域づくり」・「森づくり」の活動を行っております。おかげさまで、発足から1年余りが経過いたしますが、この間の皆さまの御支援、御協力に対し、厚く御礼申し上げます。

ここに、2008年度の活動概要をご報告いたします。

当NPOの活動の中心である第7回「森の聞き書き甲子園」は、林野庁、文部科学省、社団法人国土緑化推進機構とともに、多くの企業や団体、学生の協力のもと開催いたしました。今まで「森の聞き書き甲子園」1期生、2期生の学生が中心に行っていた研修やフォーラムの運営を3期生以降の学生が中心となって担うようになり、運営体制は次の世代へと引き継がれています。

また、社団法人農山漁村文化協会のご協力により「聞き書き電子図書館」を開設し、第1回から第6回までの高校生の「聞き書き作品」（600作品）をウェブ上で検索し、閲覧できるように整備しました。

「森の聞き書き甲子園」卒業生有志から始まった「共存の森」と呼ぶ「森づくり」・「地域づくり」の活動は、「森の聞き書き甲子園」卒業生だけではなく、一般の高校生や大学生、「森の名手・名人」のほか、地域の方々にも参加いただき、その輪を広げています。2009年の3月からは愛知県豊田市の椿立地区にて東海地区の活動が始まり、現在、全国5地区で活動を行っています。

11月22日から24日に北陸地区で行った「全国セミナー」には、各地区のメンバーが集まり、情報交換を行うとともに、2日目には村上市内にて山間地域の農業と地域づくりをテーマとしたシンポジウムを開催し、「共存の森」の活動を広く一般の方々にも知っていただく機会となりました。

また、2007年度、東京で開催した「森の名手・名人フォーラム」の第2回は、木曾の林業と職人の手技をテーマに10月11日から13日に長野県上松町で開催し、名人や学生、一般の方などに参加いただきました。

広報活動では、年に3回の会報誌の発行やメールマガジンの配信の他、環境専門のブロードバンドメディア「green.tv Japan」と協働し、「森の聞き書き甲子園」や「共存の森」の活動を記録した映像をウェブ上で配信しています。

これらの活動を契機に、当NPOへの入会者数も増え、2009年4月末の時点で、正会員が55名、賛助会員が21名となりました。特に「共存の森」の活動に関わる学生の入会が増えています。

※1 森の名手・名人……樵、造林手、炭焼き、船大工、木地師など、森林に関わる分野で様々な経験や優れた技術を先人達から受け継いでいる人。

※2 森の聞き書き甲子園……日本全国から選ばれた高校生100人が「森の名手・名人」100人を訪ね、一対一で、その知恵や技、心を「聞き書き」し、記録する活動。

I 組織

1. 会員（2009年4月30日現在）

	一般会員	ユース会員	法人・団体会員	特別会員
正会員	24	31		
賛助会員	9		4	8

※ ユース会員……満23歳未満で正会員となる方

※ 特別会員……社団法人国土緑化推進機構が選定する「森の名手・名人」に選ばれた方ないし満23歳未満で賛助会員となる方。

2. 役員（敬称略）

役職	氏名	所属
理事長	塩野 米松	作家・「森の聞き書き甲子園」講師
副理事長	澁澤 寿一	NPO 法人樹木・環境ネットワーク協会理事長
理事・事務局長	吉野 奈保子	「森の聞き書き甲子園」実行委員会事務局
理事	結城 登美雄	民俗研究家・フリーライター
理事	竹田 純一	里地ネットワーク事務局長
理事	浜田 久美子	作家・NPO 法人森づくりフォーラム理事
理事	久田 浩司	結デザインネットワーク代表取締役
理事	葛西 陽介	東北森林管理局三八上北森林管理署
理事	代田 七瀬	慶應義塾大学大学院1年
理事	前川 洋平	東京農業大学大学院1年
監事	永野 巖	エー・アイ・コンサルティング代表取締役

II 事業

1. 「森の聞き書き甲子園」事業

① 第7回「森の聞き書き甲子園」の開催

「森の聞き書き甲子園」は、全国から選ばれた100人の高校生が、森に関わる分野で活躍する「森の名手・名人」を訪ね、一対一の対話を通して、その知恵や技術、ものの考え方や生きざまを「聞き書き」し、記録する活動です。株式会社ファミリーマート、富士フイルムホールディングス株式会社、トヨタ自動車株式会社等、複数の企業の御協賛、御支援により運営しています。

第7回は124名の応募があり、初めて聴力障害をもつ生徒が参加しました。そのため、聞き書きの手法を学ぶ研修会（2008年8月11日～14日：高尾の森わくわくビレッジ）や、成果発表の場であるフォーラム（2009年3月29日：江戸東京博物館ホール）は、世田谷福祉専門学校の手話通訳士の協力を得て開催しました。

また、研修会やフォーラムの運営を担う学生たちも世代交代を意識し、新メンバーを多数加えて運営を行いました。

② 第5回「森の聞き書き甲子園」映像化プロジェクト

「森の聞き書き甲子園」の卒業生を中心とした学生たちによる、森と共に生きる知恵や技を映像で記録する取り組みです。パナソニック株式会社および東京ガス株式会社の御協賛により運営しました。今回は山形県飯豊町広河原集落に暮らす「森の名手・名人」の、草木の恵みを生かした生活の知恵や技術の記録のほか、第7回「森の聞き書き甲子園」に参加した高校生の研修風景などを取材しました。

でき上がった映像作品は「森の聞き書き甲子園フォーラム」で上映しました。

③ 「海の森づくり」との連携事業

東京都が進める「海の森づくり」は、中央防波堤内側のごみの埋立地を約30年かけて、市民と行政と企業の協働により、緑豊かな公園に整備する活動です。

「森の聞き書き甲子園」では、この「海の森づくり」に協力し、フォーラム開催翌日に、「森の聞き書き甲子園」の参加高校生による、タブノキの苗木の鉢上げ作業を実施しました。

④ green.tv Japan との連携事業

環境専門のブロードバンドメディア「green.tv Japan」との連携により、「森の聞き書き甲子園」や「共存の森づくり」の活動を記録した映像を製作し、現在7作品をウェブ上で配信しています。

※「green.tv Japan」（<http://www.japangreen.tv/>）

⑤ 第2回「森の名手・名人フォーラム」の開催

「森の名手・名人フォーラム」は、全国の「森の名手・名人」や学生、一般の方々を対象に、森や山間地域の現状を肌で感じ、名人の声に耳を傾けながら、森林資源を活用した持続可能な社会の実現に向けて、学び、考えることを目的に開催しています。

第2回は木曽の林業と職人の手技をテーマに、10月11日～13日にかけて、長野県上松町で開催しました。初日のシンポジウムでは、基調講演や地元の職人たちによるパネルディスカッションを行い、約200名が参加。二日目以降は、実際に森を歩き、職人の仕事場を見学しました。三日間を通じて、木曽の地に受け継がれてきた技の伝承について参加者と共に考え、また地域に暮らす人々や名人、学生、NPOなど多様な参加者が交流する機会となりました。

⑥ FOX FIRE 倶楽部の開催

「森の聞き書き甲子園」の主催者と、御協賛、御協力をいただいている企業や団体等が、情報共有や意見交換を行い、当活動の展望について話し合いを行う場です。

今年度は、6月10日、10月14日、2月13日に開催しました。

2. 「聞き書き作品」の電子図書館化事業

2008年の10月1日より、ウェブ上で高校生の聞き書き作品を検索・閲覧できる「聞き書き電子図書館」をPanasonic NPO サポートファンドの助成により開設しました。社団法人農山漁村文化協会（農文協）の御協力により、農文協「ルーラル電子図書館」のデータベースシステムを活用させていただいています。現在、第1回から第6回までの600作品を収録しており、職種や地域等から作品を検索することが可能です。名人のプロフィール等の情報は、どなたでもご覧いただけますが、聞き書き作品の全文閲覧は有料（年会費3000円）としました（現在、全文閲覧の申し込みは8名）。その他、当NPOの会員（正会員・賛助会員）や「ルーラル電子図書館」の会員（個人：約4500人、学校・団体等：約200団体）は、全文閲覧が可能です。

広報活動としてチラシの配布等を行ったほか、農文協出版の『現代農業・増刊号』にて、聞き書き作品の連載とあわせて、電子図書館の紹介を掲載しています。

3. 森づくり・地域づくりの活動

① 「共存の森」の活動

「森の聞き書き甲子園」の卒業生有志と一般の高校生や大学生等を中心に、「共存の森」と呼ぶ「森づくり」・「地域づくり」の活動を各地で展開しています。2009年の3月からは東北、関東、関西、北陸に加えて愛知県豊田市にて東海地区の活動が始まりました。活動に対しては、社団法人国土緑化推進機構の「緑の募金」助成金のほか、北陸地区では「トヨタ環境活動助成プログラム」の支援をいただいています。

10月に北陸地区で「全国セミナー」を開催し、各地区の情報交換を行ったほか、3月には、次年度の活動計画について話し合うとともに、「森の聞き書き甲子園」7期生に活動への参加呼びかけを行いました。

□各地区の活動概要

東北地区：山形県飯豊町の広河原集落を拠点に「生きるための森づくり」をテーマに、NPO法人「美しいやまがた森林活動支援センター」の会員や地域の方々の協力を得て、活動を行っています。2008年度は、「森の名手・名人」の高橋竹子さん、高橋君子さんに、日々の暮らしについてお話を伺い、クルミの樹皮を利用した籠づくりの体験や植林地の下草刈りなどを手伝う活動を行いました。

関東地区：千葉県市原市の県有林、「鶴舞創造の森」をフィールドに「人が集まる森づくり」をテーマに、NPO法人「樹木・環境ネットワーク協会」のグリーンセイバーや地域の方々の協力を得て、歩道の整備や下草刈りの活動を行っています。2008年度はフィールド内で見つかった炭窯の保存・整備も行いました。また、近隣の県立鶴舞桜が丘高校では、「鶴舞地域の暮らし」をテーマにした「聞き書き」の授業を行いました。

関西地区：滋賀県大津市の龍谷大学瀬田キャンパスにある「龍谷の森」と隣接する堂町にて「大学と地域をつなぐ森づくり」をテーマに、里山学・地域共生学オープンリサーチセンターの先生方と地域の方々の協力を得て、活動を行っています。2008年度は堂町の年間行事に参加しつつ、休耕田を利用した蕎麦づくりに挑戦しました。また、キノコ研究家の「森の名手・名人」をお呼びして、地域の子供たちを対象にしたキノコ観察会を催しま

した。

北陸地区：新潟県村上市の高根集落にて「未来につなげたい高根の暮らし」をテーマに、高根フロンティアクラブの会員や地域の方々の協力を得て、ブナの森づくりを行いながら高根の暮らしを学ぶ活動を行っています。2008年度は、棚田の米づくりを体験し、棚田の現状と10年後に関する聞き取り調査を実施。高根地区の将来について地域の人々と話し合う機会を得るとともに、その成果を、村上市内で開催したシンポジウムで発表しました。また、3月には「東京朝市」（アースデイ・マーケット）で、収穫したお米を販売し、活動を紹介しました。

東海地区：2008年度より新たに愛知県豊田市の椿立自治区をフィールドに活動をスタートさせました。地域の暮らしとそこに暮らす人々の思いを知ることが目標に、地元学の手法を用いて地域の方々と集落を歩き、気になったものや気づいたことなどをカードや地図にまとめる活動を3月に実施しました。

活動回数と参加者

東北地区4回、延べ33人（1回あたりの平均8.3人）
関東地区6回、延べ47人（1回あたりの平均7.8人）
関西地区13回、延べ88人（1回あたりの平均6.8人）
北陸地区8回、延べ82人（1回あたりの平均10.3人）
東海地区2回、延べ19人（1回あたりの平均9.5人）
全国セミナー 36人（シンポジウムのみ参加者は除く）

※活動回数：フィールドでの活動のみ（会議、打ち合わせ等は除く）

※参加者：活動に協力いただいている地域の方々や事務局スタッフ等は除く。

② 「地域づくり」とともにある「森づくり」のモデル構築

2008年9月より、当NPOの「森づくり」や「地域づくり」の活動は、社団法人国土緑化推進機構の「創造的公募事業」の助成を新たに受けることとなりました。これは、北陸地区で実施した「10年後の棚田のマップ作り」などの活動を参考としながら、「聞き書き」や「地元学」の手法を活用した「森づくり」や「地域づくり」の活動をマニュアル化するとともに、「共存の森」の各地区の活動が、「森と地域の暮らしをつなぐ」ための活動であることを改めて確認し、他地域に普及するために行うものです。

今年度から始まった東海地区の活動は、これまでの各地区の活動のあり方を参考に、新たなメンバーが集まって、「地元学」の手法を活用し、まず、「椿立地区の暮らしを知る」ということから活動を始めました。

今後、このような形で「共存の森」の活動が各地区に広まるように、また、「聞き書き」の手法や考え方を普及する一助ともなるように、この助成金を活用したいと思います。

4. 広報活動

会報誌（vol.3、vol.4）やホームページ、Blog（年間記事数67）、メールマガジン（第4号～第10号）を通じて、随時活動のお知らせや報告などを行いました。また、イベント時などには、マスコミ向けにプレスリリースを配信。2008年度の新聞・雑誌への記事掲載実績は以下の通りです。

「共存の森ネットワーク」関連：新聞11回、雑誌5回

「森の聞き書き甲子園」関連：新聞11回、雑誌6回

5. その他

① インターン生の受け入れ

損保ジャパン環境財団のCSOラーニング制度を通じて、2008年の6月から今年の1月まで早稲田大学社会学部3年の中村会美子さんをインターンとして受け入れました。中村さんは、インターン期間終了後も、「共存の森」の活動に参加しています。

② 「森の聞き書き甲子園」の海外への展開

当NPOと日本のNGO「いりあい・よりあい・まなびあいネットワーク」、インドネシアのNGO「Rumah Kamu」（ルマ・カム）の協働で、インドネシアの高校生が「聞き書き」の手法を用いてインドネシアの森の暮らしや文化を学ぶ環境学習の実施を検討しましたが、活動資金とする助成金の獲得ができなかったこと、現地の運営母体となる「Rumah Kamu」（ルマ・カム）の体制が整わなかったことなどから、事業の実施を見合わせました。

③ 「聞き書き」の普及啓発

他団体主催の「聞き書き」に関するイベントの中で「聞き書き」のノウハウの指導や、「森の聞き書き甲子園」の活動事例の紹介を行いました。

高井田モノづくり体験塾（11月9日、大阪にて開催。主催：高井田まちづくり協議会）

町工場で働く人々を対象とした「聞き書き」の体験塾の開催にあたり、塩野理事長と「共存の森」関西地区のメンバー2名で、参加した高校生や大学生に「聞き書き」の指導を行いました。

多摩ニュータウンアーカイブシンポジウム～聞き書きで世界が広がる（12月13日、東京にて開催。主催：多摩ニュータウン学会、多摩大学総合研究所）

「聞き書き」を実践している団体の一つとして、「森の聞き書き甲子園」の活動事例を紹介しました。

第1号議案－2 2008年度決算書

1. 2008年度収支計算書

書式第12号(法第28条関係)

平成20年度特定非営利活動に係る事業会計収支計算書			
平成20年 5月 1日から平成21年 4月30日まで			
特定非営利活動法人 共存の森ネットワーク			
(単位:円)			
科 目	金 額		
(経常収支の部)			
I 経常収入の部			
1 会費収入		501,000	
2 事業収入			
普及啓発事業収入	289,440		
地域づくり事業収入	227,846	517,286	
3 参加費収入		1,535,000	
4 助成金収入		8,295,882	
5 協賛金収入		29,995,154	
6 寄付金収入		2,666,380	
7 雑収入		926,410	
当期収入合計			44,437,112
経常収入合計			44,437,112
II 経常支出の部			
1 事業費			
青少年教育事業費	26,496,360		
普及啓発事業費	97,440		
森づくり事業費	6,780,608		
地域づくり事業費	1,200,000	34,574,408	
2 管理費			
給料手当	4,800,000		
法定福利費	594,722		
福利厚生費	22,604		
印刷費	224,893		
支払手数料	131,224		
制作費	133,333		
施設借上費	171,290		
講師料	20,000		
リース料	899,324		
車両借上費	41,685		
消耗品費	45,111		
地代家賃	900,000		
租税公課	127,400		
旅費交通費	217,037		
通信費	154,283		
道具資材費	116,380		
会議費	51,044		
新聞図書費	2,300		
雑費	15,000	8,667,630	
経常支出合計			43,242,038
経常収支差額			1,195,074
III その他資金収入の部			-
IV その他資金支出の部			-
当期収支差額			1,195,074
前期繰越収支差額			2,490,200
次期繰越収支差額			3,685,274
(正味財産増減の部)			
V 正味財産増加の部			
1 資産増加額			
当期収支差額	1,195,074		
2 負債減少額	-		
増加額計			1,195,074
VI 正味財産減少の部			
1 資産減少額	-		
2 負債増加額	-		
減少額計			-
当期正味財産増加額			1,195,074
前期繰越正味財産額			3,044,191
次期正味財産合計			4,239,265

(注記)

1. 資金の範囲は、現金預金、未収入金、未払金、前受金、預り金を含んでいる。

2. 2008年度事業会計財産目録

書式第10号(規則第11条関係)

平成20年度特定非営利活動に係る事業会計財産目録

平成21年 4月30日現在

特定非営利活動法人 共存の森ネットワーク

科 目		金 額 (単位:円)	
I 資産の部			
1 流動資産			
現金預金			
現金	287,252		
三菱東京UFJ銀行本店	278,623		
三菱東京UFJ銀行本店	7,432,010		
郵便局	73,280		
未収入金			
(社)国土緑化推進機構	4,226,903		
その他	200,998		
流動資産合計		12,499,066	
2 固定資産			
固定資産合計	-	-	
資産合計			12,499,066
II 負債の部			
1 流動負債			
未払金			
(社)国土緑化推進機構	2,211,942		
(株)エスパシオ	899,324		
その他	726,334		
前受金			
トヨタ自動車(株)	1,155,473		
日本財団	3,000,000		
預り金			
源泉所得税	259,628		
住民税	7,100		
流動負債合計		8,259,801	
2 固定負債			
固定負債合計	-	-	
負債合計			8,259,801
正味財産			
			4,239,265


3. 2008年度決算についての監査報告書

監 査 報 告 書

特定非営利活動法人 共存の森ネットワークの
2008年度決算について監査の結果、事業報告は事業の内
容を適切に反映していると認めます。

21 年 6 月 25 日

特定非営利活動法人
共存の森ネットワーク

監事 永野 巖 

永野 巖